

愛知県における良好な河川環境の保全・復元並びに創出の推進（重点）

計画概要

◆計画期間

平成30年度～令和4年度(5年間)

◆計画の目標

河川は身近で貴重な自然環境であるため、良好な河川景観と水辺空間の形成や水辺利用の促進を図ることにより、良好な河川環境の保全と創出を図る。

◆計画の成果目標(定量的指標)

指標①: 乙川リバーフロント地区の魅力発揮に関する市民満足度評価を60%から68%に拡大する。

指標②: 乙川リバーフロント地区の橋梁(歩道、人道橋)を往来する人数を3,720人/12hから4,020人/12hに拡大する。

指標③: 東岡崎駅の1日当たり乗降客数を36,594人/日から39,500人/日に拡大する。

指標④: 蟹江川の水辺の利用促進を図る。(川沿いにある祭人の来館者数を50,000人/年から60,000人/年に拡大する。)

評価内容

◆ 交付対象事業の進捗状況

交付対象事業	事業費※	事業の実施状況	進捗率※
A (基幹事業名)	349百万円	乙川におけるスロープ・階段の整備、蟹江川における親水護岸の整備を実施する。	91%
B 関連社会資本整備事業	—	—	—
C 効果促進事業	—	—	—
合 計	349百万円		

※事業費は実績額

※進捗率(%)は各事業の計画に対する実施割合【事業費ベース】

◆ 事業効果の発現状況、目標値の達成状況

I 定量的指標に関連する交付対象事業の効果の発現状況

・矢作川水系乙川総合流域防災事業 … 別紙1

・日光川水系蟹江川統合河川環境整備事業 … 別紙2

Ⅱ 定量的指標の達成状況

指標①(乙川リバーフロント地区の魅力発揮に関する市民満足度評価を60%から68%に拡大する。)

最終目標値	68%	目標値と実績値に差が出た要因	コロナ渦からの回復や大河ドラマで岡崎市が舞台となったことが重なり、市民感情が良好であったため。
最終実績値	83%		

指標②(乙川リバーフロント地区の橋梁(歩道、人道橋)を往来する人数を3,720人/12hから4,020人/12hに拡大する。)

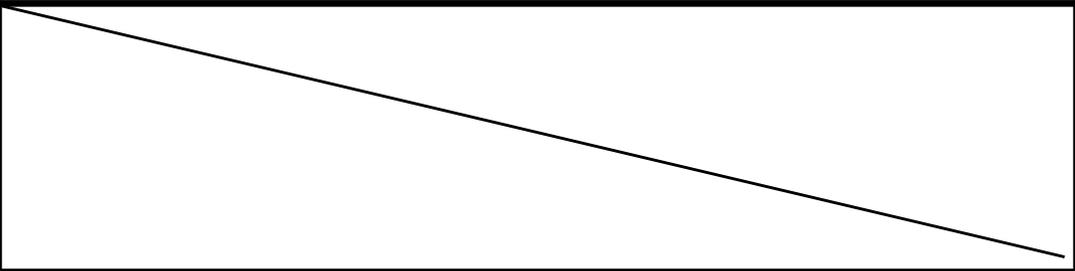
最終目標値	4,020人/12h	目標値と実績値に差が出た要因	新たな人道橋(桜城橋)が開通したこと、及び籠田公園等の中心市街地が活性化したことなどにより、まちと河川を回遊する人が増加したため。
最終実績値	9,041人/12h		

指標③(東岡崎駅の1日当たり乗降客数を36,594人/日から39,500人/日に拡大する。)

最終目標値	39,500人/日	目標値と実績値に差が出た要因	コロナ渦に乗降客数が激減し、回復途上であるため。(令和4年度末時点)
最終実績値	33,508人/日		

Ⅱ 定量的指標の達成状況

指標④(蟹江川の水辺の利用促進を図る。川沿いにある祭人の来館者数を50,000人/年から60,000人/年に拡大する。)

最終目標値	60,000人/年	目標値と実績値に差が出た要因	
最終実績値	60,904人/年		

◆今後の方針

日光川水系蟹江川統合河川環境整備事業は、令和5年度までの計画であることから、引き続き親水護岸整備を実施するなど、良好な河川環境の実現に努め、水辺の整備・利活用による地域の活性化に取り組む。

◆事後評価の実施体制、実施時期

事後評価の実施体制	策定主体にて評価を実施。
事後評価の実施時期	令和8年3月
公表の方法	WEBページ公開 (https://www.pref.aichi.jp/soshiki/kasen/0000039039.html)

【基幹事業】

■事業名

矢作川水系乙川総合流域防災事業

■工事概要

スロープ、階段整備

■事業箇所

岡崎市

■事業主体

愛知県

■事業効果

乙川リバーフロント地区の魅力発揮に関する市民満足度評価や、橋梁(歩道、人道橋)の往来人数の目標を達成し、にぎわい創出に大きく寄与した。

位置図



事業箇所(愛知県岡崎市)

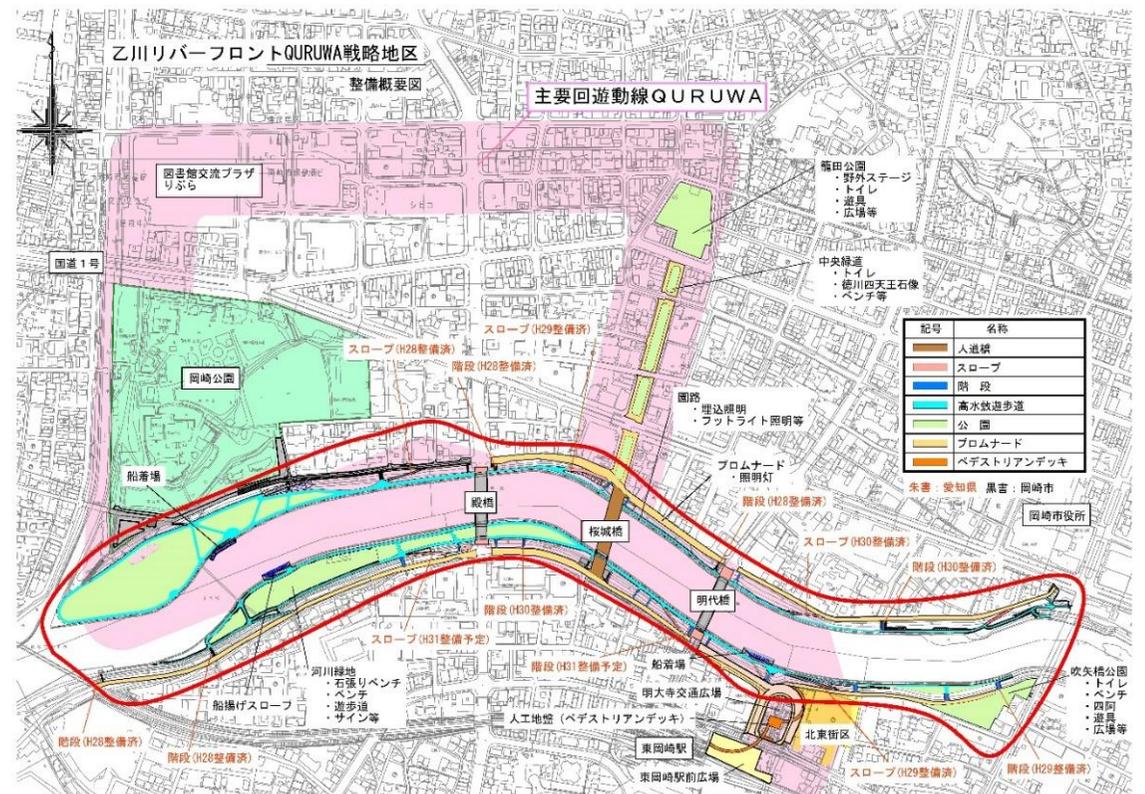


計画の概要

良好な環境を持つ乙川の水辺空間を整備し、歩行空間やまちと川のつながりを整えることで利用を促し、周辺地域へ民間の活動を促すものである。

これらを実施することで中心市街地の活性化を図り、さらに、将来の岡崎市の人口構造を踏まえた、適正なまちづくりの拠点を形成し、観光産業都市の創造を図る。

平面図



ハード整備・ソフト施策概要

1. ハード施策

- 愛知県：スロープ、階段
- 岡崎市：桜城橋、高水敷遊歩道、船着場、船揚げスロープ、トイレ、ベンチ など

2. ソフト施策

- 民間：オープンカフェ、泰平の祈り、定期イベント (乙川リバーライフプロジェクト) など

事業効果の発現状況事例

事業実施の効果

事業実施前

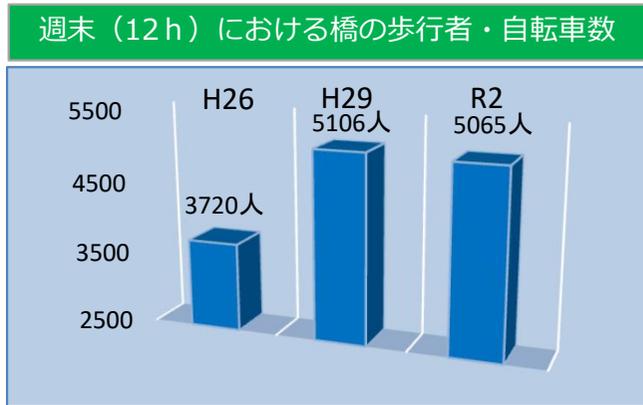


草が生茂り、雨天時はぬかるみ、歩きにくい空間

事業実施後



園路・広場が整備され、誰もが安全・安心で何度も訪れたい水辺空間へ



※中間年度（平成29年度）時点で目標達成

事業実施前

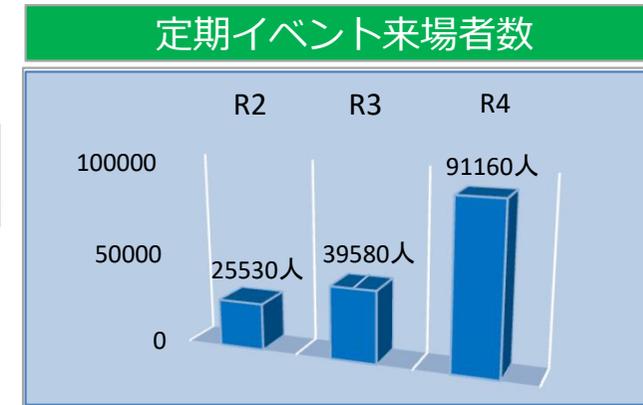


日常的に利用されていなかった水辺…

事業実施後



民間主体事業の定期開催により利用者が増加



※民間事業者による水辺空間活用「おとがワ！ンダーランド」から「乙川リバーライフプロジェクト」にR3年度に切り替わった

事業実施前

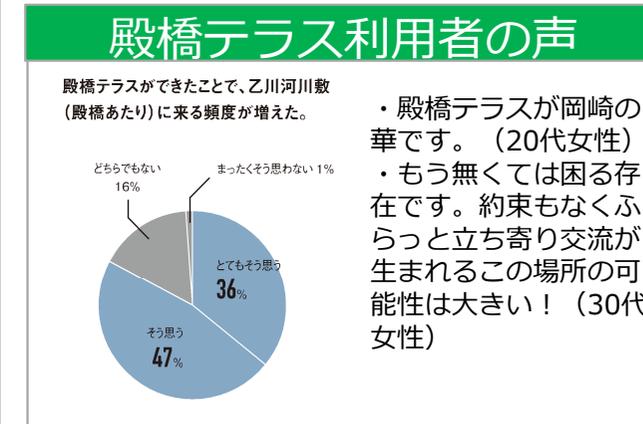


「岡崎城」をのぞむことが出来る殿橋の橋詰空間

事業実施後



殿橋もとにデッキで組まれた「殿橋テラス」を活用したカフェ



【基幹事業】

■事業名

日光川水系蟹江川統合河川環境整備事業

■工事概要

護岸工

■事業箇所

蟹江町

■事業主体

愛知県

■事業効果

川沿いにある祭人の来館者数を目標の年60,000人／年を超える年60,904人／年(R4実績)を達成し、にぎわい創出に大きく寄与した。

位置図



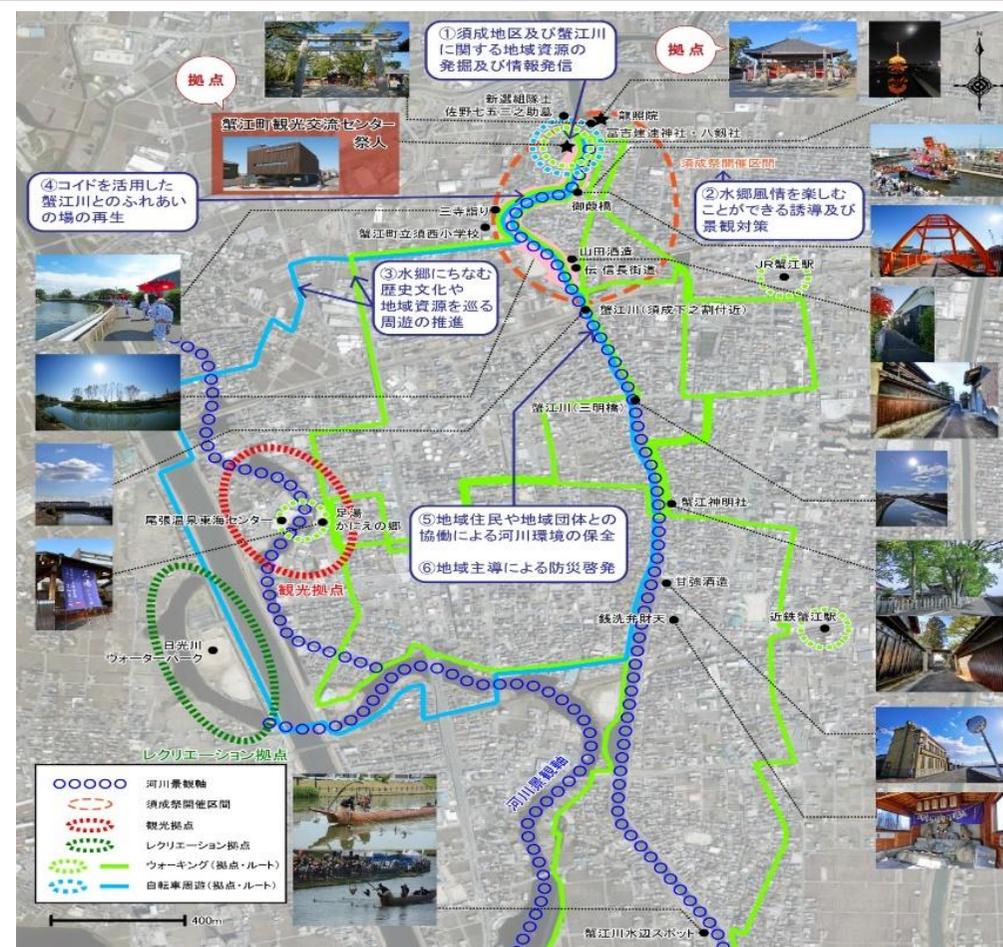
事業箇所（愛知県蟹江町）



計画の概要

2016年にユネスコ無形文化遺産登録された「須成祭」が行われる蟹江川とその周辺との周遊性を高めるために整備された観光交流センター「祭人（さいと）」を拠点とした観光・産業振興の促進を図る計画。

平面図



ハード整備・ソフト施策概要

1. ハード施策

- 愛知県：親水護岸 など
- 蟹江町：舗装道修繕、転落防止柵、案内板設置 など

2. ソフト施策

- 蟹江町：情報発信 など
- 民間：舟めぐり、河川観察イベント、河川清掃 など



観光交流センター「祭人（さいと）」（以下「祭人」という。）から眺める単調なコンクリート護岸



まちづくりの拠点となる施設がない



須成祭（車楽船）と単調なコンクリート護岸



昔の景観の再現に配慮した親水護岸の整備は河川空間の魅力を高め、蟹江川を中心とした交流や観光を促進することに寄与する



蟹江川沿いにある地域振興の拠点となる「祭人」がH30.5に誕生

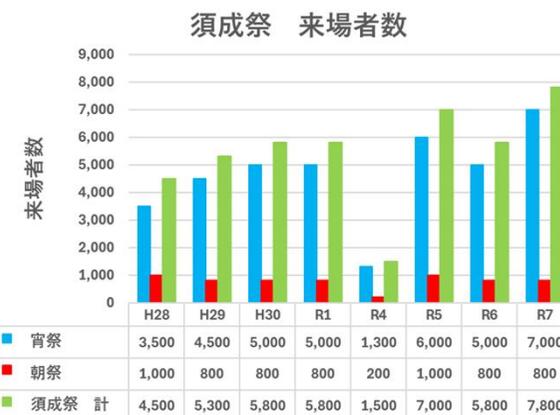


整備後の護岸と須成祭（車楽船）

拠点効果

- ・祭人 利用者数の増加
H30 50,051人/年
R4 60,904人/年
- ・利用者アンケートとノートに書き込むタイプの2つの方法でアンケート実施
- ・満足度としては「大変よい・よい」が95%を占めた

来場者数推移



※新型コロナウイルス感染症により、R2,R3は開催中止
R4は規模を縮小して開催